

平成22年度 甲南学園 事業計画書

はじめに

平成22年度は本学園が競争的な環境のなかで個性輝く学園づくりを目的として策定した中期経営計画事業実施期間（平成18年～22年度）の最終年度にあたります。「知能情報学部」の開設（平成20年度）、理工学部の再編（平成20年～22年度）を手始めに「人物教育率先」に基づく教育の質向上への挑戦は、平成21年度の「マネジメント創造学部」及び「フロンティアサイエンス学部及び同研究科」の開設をもって現実に見える姿となり、狭い意味での専門教育にとどまらず、個性・創造性を発揮しうる基盤形成としての人物教育がなされつつあります。また、平成22年度には「六甲アイランド総合体育施設整備事業」が竣工し、課外活動をも学部教育のなかに位置づけるための環境が整います。さらには、開設7年目を迎える法科大学院は法曹養成の甲南スタイルを確立しつつあり、これを一層促進します。

平成22年度は、中期経営計画の中で出つつあるこのような芽を学園創立100周年に向けて発展させていくための重要な時期ととらえ、創立90周年から100周年への中期計画の策定を目指して広く材料を集め、創立100周年に向けた助走を開始します。

一方、経済環境は平成22年度も依然として厳しい状況の下にあり、学費支弁が何をもたらずのかという長期的な評価が問われる中、定量化評価のみに振りまわされず、甲南教育のさらなる質向上に腰を据えて取組みます。また、デフレ傾向にある経済状況を勘案して、物品調達についてはクオリティ・コントロールを十分発揮しつつ、一層のコスト削減を図るとともに、デフレ状態での学費設定、資産運用、予算執行など手抜かりなく運営し、中期経営計画の完遂を目指して、以下の事業に取り組んでまいります。

I 平成22年度中期経営計画主要事業概要

1. 「人物教育率先」に基づく教育の質向上への挑戦

(1) 理工学部の再編に係る施設設備の充実

平成21年度に完了した学部定員の見直し、組織的な再編を踏まえ、平成22年度は自然科学基礎実験施設、学修支援施設等、施設、設備を整備、充実します。これらの施設では、低年次での基礎実験の充実等、基礎的な学習とともに豊富な発想力の涵養も含め、学習・研究へのモチベーションの高揚など教育力の強化に努め、様々な形での地域・社会貢献も含む、理工学教育の社会的使命を果たしていきます。

(2) CUBE「マネジメント創造学部」、FIRST「フロンティアサイエンス学部及び同研究科」の充実

マネジメント創造学部及びフロンティアサイエンス学部・同研究科は開設2年目を迎えます。マネジメント創造学部ではプロジェクト型学習、フロンティアサイエンス学部では学習スペース「マイラボ」やフロントランナー講座、サイエンスライブチケット等、両学部の特色ある教育・研究活動を展開し、2年目の充実を図ります。また、各キャンパスの立地を生かした地域、近隣大学・企業、研究機関等との連携をさらに推進します。

2. 学園創立90周年記念募金事業（平成18年度から22年度）

(1) 平生鈆三郎記念教育振興事業

「平生鈆三郎記念教育振興事業」として創設された「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」による「甲南90周年栄誉スカラシップ」（大学）、「甲南90周年オナースカラシップ」（高等学校・中学校）の各奨学金給付を継続して実施します。

(2) 六甲アイランド総合体育施設整備事業

六甲アイランド総合体育施設整備事業は、残る新部室棟の建設及び外構工事を行い、スポーツの持つ教育力を十分に引き出す、ユニバーシティスタンダードの施設を完成させます。

(3) 高等学校・中学校新体育館整備事業

新体育館建設、老朽化した既存建物の更新等を想定した校地整備に関する課題を抽出し、計画検討を重ね、その具体化に備えます。

II. 大学・大学院関係

1. 教育

(1) 学部教育充実のための多様な取組み

教育基本方針に掲げた創立者平生鈆三郎の建学の理念である「人物教育の率先」の具現化を目標に、これまでの様々な取組みを継続、発展させるとともに、FD活動や教職協働で、学生のために教育研究の充実を図ります。教育改革を牽引する組織として「平生総合教育研究センター（仮称）」を構想する中で、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）を勘案して、「21世紀型市民」に相応しい「学習成果」の達成を果たすべく、総合教養教育プラス専門教育を中心に、シラバスの内容の充実、厳格な成績評価、入学前教育、キャリア教育、リメディアル授業等の補完教育を充実させます。また、平成21年度に引き続き、甲南大学父母の会から支援いただく「父母の会・学生GP」を活用し、学生と教職員が協力の下、学生が主体的に行う様々な取組みを喚起します。

法学部、経営学部においては、学部開設50周年を記念した講演会を開催し、記念誌等を刊行します。

(2) 大学院教育充実のための多様な取組み

大学院の活性化を図ることを目的に、各研究科に①科目等履修生、研究生、聴講生の各制度、②入学前の既修得単位を認定する制度を設け、各研究科・専攻の人材養成の目的の実現に開かれた大学院にするよう努めます。法科大学院においては、中堅ロースクールとしての地位確立を目標に「全国平均合格率+3%」の司法試験合格者ができるよう、学習指導を含めて全般の活動を強化し、会計大学院においては、公認会計士試験早期（在学中又は修了後初回）合格を目標にカリキュラムの検証、授業改善、公認会計士試験の動向分析、経営学部との連携等、公認会計士試験に対応した学習指導体制を引き続き強化します。

(3) 自己点検評価の推進、内部質保証システムの構築

大学基準協会に、平成18年に受けた認証評価に対する改善報告を行います。また、平成25年に受ける二回目の認証評価にむけて、大学の質を自ら保証する「内部質保証システム」の構築に取り組めます。また、平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学支援プログラム」に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国

公私立4大学IRネットワーク」の事業を推進し、連携大学間の「相互評価」も活かし、特色ある甲南教育実現のため、教育の質保証の実質化を目指します。

※IR Institutional Research(機関研究)：大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(4) F D活動等教育改革への取組み

授業改善アンケート、ホームページ・F Dニュース等での情報発信を効果的に行うための分科会・部会の活動強化を図りつつ、行きすぎた画一化を避けた活動を継続して推進します。また、会計大学院においては、大学基準協会による認証評価結果(平成21年度)を基に、独自のF D活動を強化します。さらに、特色ある教育の具現化を目指した「甲南平生G P」の取組みも推進します。

※F D(ファカルティ・ディベロップメントの略)：教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組みの総称。

※甲南平生G P：本学の特色として明確に打ち出せる教育改革の取組みを教職員から募集し、優れたプランは、文部科学省の「現代G P」「特色G P」に応募するとともに、全学的な支援体制を整えて実行することを目的としています。

(5) キャリア教育の推進

平成18年度文部科学省「現代G P」に採択された「価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム」は4年次配当の「アドバンスト・キャリアデザイン科目」を開講し、1年次から4年次まで体系だったキャリア教育カリキュラムを完成させます。また、平成20年度「甲南平生G P」に採択された「キャリア教育の発展型を通して培う学士力」の取組みを推進します。

※現代G P「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」：文部科学省が各大学からの応募を受け、学生教育の質の向上などの大学教育改革の取組を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、各大学などでの教育改革の取組を促進することを目的としています。

(6) 国際交流・留学支援の推進

従来アメリカやヨーロッパから中国や韓国、さらには東南アジアへと協定・交流を拡大し、学生の留学の機会と数を増やすとともに、留学生の受け入れや学術交流等に努めます。また、平成22年度より中国・台湾において、国際理解の機会を与えることを目的とした「エリアスタディーズ」プログラムを開始し、教育を通じた学生交流を推進します。

(7) 学修支援の推進

推薦入学手続者等を対象とした入学前教育プログラム、リメディアル教育や情報システムを活用した各学部の特徴的な学修支援プログラム、履修指導を持続的に実施し、学生の学習意欲向上に向けた取組みを強化します。

(8) スポーツ強化支援策の実行

「強化指定団体制度」、「指導者招聘支援金制度」を軸としたスポーツ教育力の強化を図ります。体育会クラブの積極的な地域貢献・広報活動等、総合的なスポーツ教育力強化支援策を継続して実施します。

2. 研究

(1) 平生太郎基金科学研究奨励助成による助成金交付

自然科学（医学を含む）及びそれを中心とした複合分野を対象に、本学が世界水準の研究拠点となる夢を実現しようとする気概のある研究に対して平生太郎基金により奨励助成します。また、人文・社会系分野においても、同基金の遺贈者の精神に喚起された学園が同様の趣旨で「甲南平生記念人文・社会科学研究奨励助成」として助成金を交付します。

※平生太郎基金科学研究奨励助成：学園創設者平生八三郎のご子息、平生太郎氏のご令室である故平生愛子氏から遺贈を受けた財産で、科学研究を奨励することを目的とした基金。平成6年より開始された学内の研究奨励助成制度。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された下表の事業を引き続き推進するとともに、平成22年度は量子ナノテクノロジー研究所の「非平衡過程を用いた相関誘起機能性物質の構造および物性制御」、ビジネスイノベーション研究所の「関西地域発イノベーション・プラットフォームの構築」の2件を同事業に申請し、採択を目指します。

【私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の継続研究】

テーマ	期間
「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」 (人間科学研究所)	平成20年度から5年間
「分子クラウド環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」 (先端生命工学研究所)	平成21年度から5年間

(3) 研究支援体制の強化

フロンティア研究推進機構が核となり、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の申請から研究費の管理・執行までを一元的に支援し、各種セミナー等を開催し、補助金事業の正しい理解ときめ細かいサポートを強化します。また、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に対応する体制の見直しを適宜行い、公的研究費の適正な管理と執行に努めます。

(4) 知的財産管理体制の強化

「知的財産ハンドブック」及び「知的財産Q&A集」等により、本学における知的財産の取扱いについての周知及び、契約手続き等の実務面での支援を行うとともに、知的財産の専門家による発明相談会や特許検索講習等にも取り組みます。

3. 学生支援活動

(1) 経済的に修学困難な学生に対する特別措置の実施

平成21年度の時限的な緊急特別措置として行った、深刻な経済不況と雇用情勢の悪化に伴う学費支弁者の失職、会社倒産等による家計の急変等によって、経済的に修学困難な学部学生を支援するための授業料減免等の継続実施をいたします。

(2) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い意欲を引き出すために、優秀な学生（成績、スポーツ、留学等）への表彰制度、給付制奨学金の充実、また、留学、教職等を目指す者に対する目的別の貸与制奨学金を引き続き実施します。

(3) 学生支援ネットワークの構築

平成20年度「甲南平生GP」に採択された「学生の個性化を支える心と体の成長支援」プロジェクトを継続し、学生部、医務室、学生相談室、スポーツ・健康科学教育研究センターが連携し、学生の心身両面からの成長支援プログラム・学生相互の支援力（ピア・サポート）を涵養し学生各々も成長していく「ピア・サポート制度」の確立を目指す一つのトライアルが開始されます。

(4) 学生生活の活性化、健康管理支援

在学中に課外活動で顕著な活躍をした学生に、学長表彰・学長顕彰等各種表彰を行います。また、学生を中心とした共生・共働キャンパスの実現を目指し、市民救命士育成講座、スポーツ安全講習会等を開催するとともに、学校医による健康相談、医務室でのセーフティネットを強化し、学生の心身の健康管理と増進を支援します。

(5) キャリア形成・就職支援

学部・専門職大学院の特性を考慮したプログラム、マナー教育、インターンシップ・ボランティアプログラム、「企業研究講座 in TOKYO」等を継続実施するとともに、平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に採択されたプログラム「ニート回避と未内定者削減のための就職相談・情報提供体制の充実」を基に、就職活動の意欲向上、ニート回避を目指した相談業務と情報提供に取り組みます。また、保護者に就職活動への理解を深めていただくために、1・2年次向けと、3年次向けに分け、父母就職説明会を実施します。

さらに、教職志望者には教職教育センターにおいて、引き続き、各学年に応じた実践講座等を展開し、学修から就職までを支援・指導する体制を強化します。

(6) 父母対象の教育懇談会の実施

保護者の方々に学生生活の理解と関心を深めていただくことを目的とした「教育懇談会」は、本学岡本キャンパスのほか、名古屋、広島、高松、福岡の4都市で開催します。

4. 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

シンポジウムや研究会を通して各研究所での研究成果を社会に向けて発信します。経済学部が学生・行政・NPO等と一体で取組む「地域再生システム論」、文学部内に設置した「コミュニティ・デザイン・センター」を中心とした「地域連携プロジェクト」等を発展進化させるとともに、学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、図書館・サイバーライブラリの公開利用等地域とのつながりを図ります。

※地域連携プロジェクト：本学の教育理念と本学が立地する地域ニーズを背景として、神戸市東部～芦屋市や西宮市にまたがる阪神間文化圏における「新たなコミュニティの創生」に学生、教職員がともにかかわりながら、大学が地域とコミュニケーションする教育プログラム。

(2) 高大連携の推進

「高大連携聴講生制度」に基づく、指定講義における高校生受入れの充実を図るとともに、各学部・大学院、研究所においては、出張講義、模擬講義を拡充します。また、独立行政法人科学技術振興機構（JST）等が支援する、大学と学校等との連携事業への企画申請、採択・実施を目指します。

(3) 教育委員会との連携強化

「数学科甲子園」、「NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会」等の実施に協力し、知名度の向上と社会貢献を図ります。また、教職教育センターにおいては、学校ボランティアや、学生のみならず教育委員会と本学教職員が互いに参加できる取組みを推進します。

(4) 産官学連携の推進

本学の知的財産を有効活用するため、展示会、新技術説明会等で積極的に情報を発信するとともに、フロンティア研究推進機構において、「産学交流サロン」を開催し、産業界、官公庁、卒業生・地域住民等との緊密なネットワークを構築します。

(5) 大学間連携の推進

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流委員会の事務局として、同委員会が主催する「プロジェクトプランコンペ」や「学生交流祭典」等を通じた加盟大学間の交流を促進します。

(6) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座、「ひょうごオープンカレッジ」、「ジュニアスポーツクラブ」等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供します。

5. 環境整備

(1) 校地校舎の再開発、管理体制の構築

理工学部の再編、先端生命工学研究所の移転に伴う岡本キャンパス西校舎・北校舎の再開発を実施します。また、六甲アイランド総合体育施設の整備事業を完成させ、正課・課外・地域貢献のすべての面にわたっての有効活用と安全性・利便性向上を目指した施設管理体制を確立します。

(2) 安全管理の強化

防火、防災に関する規程を整備するとともに、防災に関する技能を有する人材を計画的に育成します。また、老朽化した防災設備を一新し、岡本キャンパスの防災機能の高度一元化を実現します。

(3) 快適・安全なキャンパス構築の推進

キャンパスバリアフリー化の推進、老朽化したトイレの改修、スロープの設置等、快適・安全なキャンパス構築を図ります。

(4) 情報インフラ整備の推進

教育研究、社会貢献を支える先端的な情報環境を維持・発展させます。学内ユビキタス環境の安定稼働とセキュリティの強化、学修支援ツールとしてのポータル・システム等の機能向を図ります。また、最適なシステム導入に向けた調査等情報収集を行い、全学の情報インフラの統合へ向けた視点を持ちつつ次期情報教育システムの検討を開始します。

6. 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 学生募集活動の強化

本学の教育理念に共感し、かつ優秀である学生を受け入れるために、入試結果の分析と入試制度の検証を行い、安定した志願者の数と質の確保を図ります。また、高校生や高等学校教員を対象とした説明会、オープンキャンパス等の充実を図るとともに、各学部・学科の詳細を紹介する情報発信を強化します。

(2) 協定校・指定校との連携

指定校推薦依頼校を対象とする教育交流会の定着を図り、協定校推薦入学制度の推進等多面的な連携を図るとともに、新たに兵庫県立高等学校との連携・協定等をも視野に入れた高大接続についての検討を進めます。

※協定校推薦入学制度：高大連携活動を通じての両校の教育理念・教育方針についての相互理解のもと、大学の教育内容を深く理解し、入学意欲の高い入学者を高校の推薦により、一定数一定期間、大学が継続して受け入れる推薦入学制度。

(3) 大学院入試制度の多様化

大学院の志願者増をめざし他大学院の動向を把握し、入学試験の制度、実施時期・回数、受験会場等の見直しを図るとともに、多種多様な説明会を実施、ホームページを活用した広範囲にわたる情報提供等を行い、多様な独自の広報活動を強化します。

Ⅲ. 高等学校・中学校

1. 教育

(1) 中高6年一貫教育システムの構築

甲南大学、そして世界の大学を目指す中高6年一貫（2－2－2、基礎・応用・発展）の「新教育システム」を進化・発展させるために、①人間力・対話力の充実に向けた日本語・英語の言語リテラシーの養成強化、②継続的な「計算力テスト」による計算力の涵養、③ネイティブ教員によるクラスを半数に分割した「オーラルコミュニケーション」科目による英語を使う力の涵養、④「グローバル・スタディー・コース」の円滑な実施、⑤学習・生活習慣の定着を図る各種学校行事の推進を行うとともに、新たな協定校を検討し、国際交流活動の更なる充実を図ります。

(2) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために、①社会で活躍するOB、学年を超えた学友たちとのコミュニケーションを通じた豊かな人物教育・人脈形成、②中高大連携講座やe-learningによる高大連携講義の充実、③甲南小学校との連携強化を図ります。

(3) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制

理事長・校長の経営方針の下に、人物教育率先、教育内容の更なる充実・発展を図るため諸機関と連携し、①教員組織活性化のための組織的取組み、外国人英語担当コーディネーターを新たに採用する等人員体制の強化、教員研修制度の充実、②広報戦略の強化を図ります。

2. 学習活動・学校生活支援活動

学力向上を目指した日常の学習意欲喚起の体制を構築し、学力の向上・定着を図るため、①7限授業の実施、②学習センターでの学習支援の充実、③メールマガジンやe-learningを活用した家庭学習との連携、④海外提携校とのクラブ間交流を推進します。

3. 環境整備

安全・快適な環境整備のために、定期的な施設・設備の点検・改修を行います。

4. 生徒募集・入学試験に係る活動

新たに設置した入試広報部により、入試説明会の開催はもとより、ホームページ・スクールガイドの更新等を行い、中高6年一貫教育の魅力を評価してもらえる広報活動を一層推進します。

IV. 法人

1. 学園創立90周年記念事業募金事業の推進

学園創立90周年記念募金を活用した主要事業－①創立者平生鈞三郎記念教育振興事業については秀逸な活動成果をあげた学生・生徒・活動団体に平成19年度から給付を開始し、学生・生徒の活動の活性化に寄与しています。②六甲アイランド総合体育施設整備事業は6月に完成します。③高等学校・中学校新体育館整備事業はさまざまな可能性の広がりのもとで検討を重ね、その具体化に備えます。なお、平成18年に開始した募金活動は本年度末まで目標達成を目指して継続します。

2. フランス甲南学園トゥレーヌの教育の質向上と閉校への取組み

平成22年度高等部1年生を最終学年とし、平成24年度末に閉校することがフランス甲南学園トゥレーヌの理事会で決定されたことを受け、同校の教育水準を最終年まで維持・向上を図り続け、甲南学園としても責任を持って有終の美を飾るべく、フランス甲南学園トゥレーヌ閉校プロジェクトの推進を強力に進めていきます。

3. 管理運営・財政

(1) 危機管理体制の強化

危機管理に関する規程、マニュアル等の整備を図るとともに、鳥型インフルエンザの流行、震災等における事業継承に関わる計画を策定し、安否システムの構築等危機管理体制を強化します。

(2) 新給与制度の構築、職員組織、人事制度の点検、労働環境の改善

学園の発展と個人の成長が相関する新給与制度の構築に引き続き取り組み、適正な人件費割合の実現を図ります。また、より高いレベルの教育・研究支援と学園管理運営体制を実現するため、環境変化に柔軟に対応能力の高い事務組織の構築、人事諸制度の見直しを図るとともに、心身の健康問題を重視したメンタルヘルス対策に取り組みます。

(3) 安定的な財務体制の管理及び財務情報の公開

発展的でより安定した学園財政を目的として、中長期的な学園資金計画を策定し、各事業の展開に伴った中長期的資金計画に基づいた充当策を講じ、個性輝く甲南教育の実現のための確固たる財務体質の形成に取り組みます。また、中期経営計画主要事業等の単年度の動向について、より正確に把握するとともに、引き続き、学園財政に関する説明責任を果たすべく、財政情報の開示に取り組みます。

(4) コスト削減の実施及び省エネルギーの推進

物品調達規程遵守の徹底、電子入札購買システムの活用により、デフレ傾向にある経済情勢を踏まえた調達コストの更なる削減と業務の効率化を図ります。また、平成21年度に制定した「甲南学園省エネルギー推進に関する規程」に基づき、省エネルギー推進体制を構築し、エネルギー使用の合理化と温室効果ガスの排出削減に取り組みます。

(5) ネットワークキャンパス東京の活動強化

学園・大学の首都圏における活動拠点としてネットワークキャンパス東京の体制を充実させ、情報発信・交流を首都圏規模を強く意識して推進します。また、首都圏における就職活動支援をさらに強化するために、首都圏に就職した新卒社会人を対象とした「東京ウェルカムパーティ」の実施等、卒業生による就職サポートのためのネットワーク（KOMNET）の充実を図ります。

4. 広報活動・卒業生との連携

(1) 広報活動の充実・強化

引き続き、戦略的な広報活動を展開し「甲南」の社会的なブランド力の強化を図ります。社会と学校とのコミュニケーションをより密にすべく、これまでに反響を得た、スポーツ、文化、ボランティア活動等への協賛を継続します。また、創立者平生鈇三郎の「平生鈇三郎日記」（全17巻の予定）の出版を開始します。

(2) 卒業生との連携強化

同窓会、各地甲南会との連携強化を図るとともに、同窓生とのネットワーク強化、卒業生の学園への理解を深めていただくことを目的に「オール甲南の集い」を開催します。